肉感的母さん

パソコンの画面と
向き合ってばかりの
オタクの僕に
人間としての最大の喜びである
セックスを
そのムッチムチのカラダで
みっちり教えてくれた日
体験版

肉感的母さん
パソコンの画面と向き合ってばかりのオタクの僕に、
人間としての最大の喜びであるセックスを
そのムッチムチのカラダで
みっちり教えてくれた日　体験版

ジリジリと熱くて湿気じみた空気が部屋中に充満している。
正午まであと１時間弱だ。
先ほど軒先にある宅配ポストに新聞を取りに行ったときに、庭先に小さな陽炎が出来ていたのが見えた。

灼熱の季節がひたひたと足音を立てて近づいてくる。

俺はエアコンをかけようかどうか迷っていた。
とても蒸し暑い。額には汗が滲んでいる。
だけど束の間の迷いを通り過ぎ、俺はこのままでいることを選択した。

“まだ、いいや”

窓の外は虫たちの鳴き声が絶え間なく響いている。

・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

“カタッ！カタカタカタカタッ！！！”

俺はキーボードを左右の指先でスピーディーに押さえていく。
小さ目の四角いディスプレイとにらめっこして、次々とデジタル文字を増やしていく。
考えてみれば実体のあやふやな仕事だ。この文字は結局、

インターネットという得体の知れない世界へと消化されていくことになる。
　俺は今、在宅でウェブ関連のライターの仕事をしている。
　少し前に職場は辞めた。

　“トンッ！トンッ！トンッ！”

　・・・・・・・・！？

　集中していたため何も気づかなかった。ドアの外に誰かがいるようだ。
　決して焦ったり急かしたりしている様子のない、落ち着いた一定のリズムのノックの音。

　声は聞こえない。

　この時点で、ノック主は
　“母さん”
　“父さん”
　“爺ちゃん”の誰か。

　つまり３択だ。

　だけど、俺はおおよその予想がついていた。

　「母さん？？」

　「そうよぉ！大地（だいち）、入っていぃっ？？」
　少しだけ語尾を強めた年上の女性の声。
　俺の予想は的中した。
　「なんだよ母さん？？俺、今仕事中なんだよぉ！！」

きっと二階の掃除をする前に、取るに足らない小さな告げ事でもあってのことなんだろう。
そう高を括り俺は面倒くさそうに返事をした。

すると！！！

“バンッ！！！”

俺の許諾を得ることもなく母さんは強引にドアを開けて・・・。

あっ！！

入ってきた・・・・・・・。

！！？？？

・・・・・・えっ！！？？！！？？！！！！？？？

俺は困惑する以外に選択肢がなかった。

なんと、そこには・・・・。

裸？？！！？！？？

体験版はここまでです

もし内容を気に入っていただけましたら

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です